

第6回 建設候補地選定専門部会 会議録

開催日時：2012年5月25日（金）15時～17時

開催場所：町田市役所 町田リサイクル文化センター 研修室

出席委員：（敬称略）

松波淳也、稲木健志、金田剛、高木康夫、佐藤正志、富岡秀行、大谷公二、高橋倫正
粕谷羊三、百武ひろ子

傍聴者：10名

《次第》

開会

1. 第5回建設候補地選定専門部会、第9回検討委員会及び第7回整備基本計画専門部会議事要旨
2. 建設候補地選定専門部会 二次選定結果
3. 建設候補地選定専門部会 三次選定の評価項目の内容と評価の例
4. 建設候補地選定専門部会 三次選定の評価項目の配点の検討

<配布資料>

資料1：第5回建設候補地選定専門部会、第9回検討委員会及び第7回整備基本計画専門部会議事要旨

資料2：建設候補地選定専門部会 二次選定結果

資料3：建設候補地選定専門部会 三次選定の評価項目の内容

資料4：建設候補地選定専門部会 三次選定の評価の例

第6回 建設候補地選定専門部会議事録要旨

1. 開会

(松波部会長)

「第三次選定の評価の項目の配点の検討」をワークショップ形式で行うが、今回時間がとれない場合は、次回の部会に回す可能性がある。

2. 第5回建設候補地選定専門部会、第9回検討委員会及び第7回整備基本計画専門部会議事要旨

〔資源ごみ処理施設の分散化及び熱回収施設の炉の数について〕

(百武委員)

資源ごみ回収施設を2箇所とした根拠と炉を2系列とした根拠は何か。

(事務局)

資料1の3ページをご覧いただきたい。ケース1は1箇所、ケース5は3箇所となっている。4箇所以上分けるのは非効率だということで、3ページに記載されているような5つのケースを挙げた。5つのケースの維持管理費、整備費、収集運搬費等の経済性を比較し評価した結果、5ケースとも、あまり差が見られなかった。現段階では具体的な候補地が決まっていないので、細かな議論は出来ないことが想定された。そのようなことから、補完能力、地域バランス等の中から優先順位をつけた。

炉を2系列とした理由は幾つか挙げられる。炉の想定処理規模が200t処理する炉が必要となること、設置スペースに限度があること、炉の燃焼の安定性、建設費(3系列の方がコストが高い)、系列の採用実績(2系列の方が実績が多い)等を考慮し、本部会では2系列を採用することとした。

(百武委員)

炉の系列を決定した経緯を議事要旨にしっかり残してほしい。どのような議論でケース分けをしたのか資料を提示してほしい。また、どのようにケース2、ケース4、ケース3を選定し、ケース2を基本としたのか。

(事務局)

ケース2を優先順位で1位にした理由は、同じ施設が2箇所あれば、万が一トラブルを起こしたときでも対応しやすいこと、収集効率が上がること、1箇所あたりの負担が減り補修頻度も少なくなること、それに伴い維持管理費が安くなること等である。ケース4は、ケース2同様プラスチック施設が2箇所となっている。他の事例を確認すると、1箇所よりも2箇所の方が、補修頻度が少なくなり維持管理費が安くなる等のメリットが挙げられている。そのような中、ケース3は1箇所となっている。したがって、ケース2、ケース4、ケース3の順番で優先順位をつけている。

(百武委員)

優先順位はなぜあるのか。意見交換会で優先順位が変わる可能性があるが、それを考慮して優先順位の検討がなされたのか。

(事務局)

前段の説明にもあったように具体的な候補地が決まっていないことから、用地の現実的な問題で、ケース2が駄目ならケース3というような、優先順位を出しておいた方がやりやすいのではないかとの意見を受け優先順位をつけた。

(高橋委員)

5ケースの中から3ケースの選定を効率性の面で検討されている。そのような中、町田市が1町4村の合併をしている背景があるが、各地区の応分の負担について分散化の観点での議論はなかったのか。

(事務局)

平等という意味では施設を2箇所造るケース2が一番よいと考えている。続いてケース3、ケース4となっているが、公平性での意味では、ケース4だろうと思う。また、以前は旧町村区分ごとの負担が必要だと言われていたが、現在はコミュニティが崩れてきて旧町村区分はなくなりつつある。新たな施設建設の考え方では、旧町村ごとに一箇所という考え方はなくなってきている。そのようなことを踏まえて、旧町村ごとの施設建設の検討はしていない。

(百武委員)

リレーセンターみなみの面積は1000m²程度であり、ケース2、ケース4、ケース3の施設を建設するには10倍の面積が必要となるが、建設は可能なのか。

(事務局)

市内で1日あたり30tのプラスチックを処理しなければならない。ケース4の場合、25t処理する施設を1箇所、5t処理する施設を1箇所建設すると仮定する。その場合、5tを処理する施設として、1000m²でも候補地としてなりうる。

(百武委員)

2箇所の施設で処理する比率を変えられるということか。

(事務局)

基本的には2箇所の処理規模は1:1で考えているが、同じ処理規模の施設が2箇所とするだけでなく、異なる処理規模の施設を2箇所建設することも検討可能ということである。

(百武委員)

熱回収施設は1箇所での建設となっているが、分散化し複数建設することについて議論はしていないのか。

(事務局)

議論はしていない。施設の建設費等の経済性や排ガス等の環境影響を考慮し、分散化すべきでないとして議論はしていない。

(百武委員)

説明責任が重要なので、議論し説明して頂きたい。

(事務局)

今のご意見について整備基本計画専門部会で提案する。

(高橋委員)

資源化施設についても議論する必要があるのではないかと。最終選定になればそのような話は必ずあがってくるので、今のうちに議論しておいた方がよいのではないかと。

(事務局)

熱回収施設は環境負荷低減の配慮のために高性能な施設の建設が求められる。そのためには安定的なごみの供給が必要となる。また市としては高効率な発電を行いたいと考えているため熱回収施設の数も1箇所がよいと考えている。

(高橋委員)

事務局で判断するのではなく、全体で議論すべきである。

(事務局)

整備基本計画専門部会のお話には出ているが、委員会で決定したかというプロセスについては確認する必要がある。資源化施設については、全体の委員会で確認を取りたいと考えている。今までの議事録を整理し、次の委員会や部会場で、決定した事項を資料として出したい。

3. 建設候補地選定専門部会 二次選定結果

〔民有地の選定について〕

(松波部会長)

前部会で民有地を含めた候補地の再検討の要請があった。これを踏まえ、民有地の候補地が6エリア挙げられたが、これに対する質問、意見はないか。

(富岡委員)

資源ごみ処理施設は、面積が7500㎡以上必要だということだが、リレーセンターみなみの面積は1024㎡しかなく、これで足りるのだろうか。

(事務局)

必要面積7500㎡には、計量設備、設備のライン、脱臭設備、緩衝地帯、ストックヤードが含まれる。候補地にリレーセンターみなみを入れた理由は、可燃ごみを処理する施設(中間処理施設)として稼動しており、活用可能な設備を有しているからである。現状として、可燃ごみの処理施設は2系統ある。現在は、そのうち1系統で処理している。例えば、そのうちの1系統をプラスチックごみの処理に使うということが考えられる。しかし、町田市で処理しているプラスチックの半分の量を受け入れたとしても、処理が追いつかない。そこで、先ほど説明したケースの組み合わせによっては、一部を処理するのに利用可能ということで候補地としてあげた。

(稲木委員)

候補地④-1、④-2のエリアは、事業活動をしているとあったが、土地取得の見通しはあるのか。また、⑤エリアは事業活用していて、取得が厳しいと説明があった。なぜ厳しいのにも関わらず候補地に選んだのか。

(事務局)

今回は資料2の緑のエリアで7500㎡以上の場所を、私見を入れずに選んでいる。施設が建っている場所は除外している。準工業地域であり、施設が建っていない場所等、候補地として可能性があるところを選んでいる。

(金田委員)

市の財政上、民有地を買収する資金の確保は可能なのか。

(事務局)

評価項目の加点について検討する時にも上がる話である。確かに民有地の用地買収費の負担は掛かる。候補地を選定するにあたり、資金の問題だけを見るだけでなく、建設候補地としてふさわしい土地かどうかを判断することも選定する条件に入れていく必要があると考えている。民有地であっても公平な評価の結果、本当に必要な土地であれば、買収する。

(稲木委員)

⑤金森、鶴見、小川エリアは候補地として厳しいとの見解があったが、なぜ候補地に挙げたのか。

(事務局)

先ほど、緑のエリアで7500㎡以上の場所で施設が建っていない箇所ということで候補地として挙げたものである。ここには事業者との合意の問題もあるが、会員制の施設であり会員との合意も必要である。したがって、事業者のみの場合に比べて合意が難しいという意味で厳しいと説明した。

(松波部会長)

買収可能かというよりも、客観的に見て候補地としてあげた。現段階では候補地としてあがっているが、これから評価していき、厳選していくと候補地として落ちる可能性もあるということである。

(高橋委員)

評価項目による比較の段階で候補から落ちる可能性があるが、もし民有地が残った場合は大丈夫なのか。最終選定に残ったのに結局駄目だったとはならないのか。それならば、最初から民有地を候補地としてあげない方がよいのではないか。

(事務局)

最終的に民有地が残った場合、我々が責任を持って買収交渉をする。適切な候補地という観点から、官民間問わず評価していければと考えている。

(大谷委員)

民有地を外したら、分散化が成立しない。三輪地区、相原地区の交渉を続けてほしい。そうしなければ、北部丘陵地区にリサイクル施設が集中してしまい、地元の方との交渉は難しくなるだろう。それに対してはどうなのか。

(事務局)

民有地を入れることで、市全体に候補地が広がっている。

(大谷委員)

北部丘陵地区は市有地であるが、ほとんど道路がなく、相当な距離の道路を整備しなければ使えないことが考えられる。したがって、民有地を用地買収するよりも道路整備にお金が掛かってしまうことが想定される。

(事務局)

三次選定の際に、現地を見て頂いて評価して頂ければと考えている。

(佐藤委員)

民有地は、市から声を掛けて、相手側から申し出たのか。今回の取り組みがスタートしていることをあらかじめ知っていて、相手側から用地譲渡の申し出があったのか。

(事務局)

今回提示した民有地は、候補地選定をしていることを知らせてから、手が挙がったところもあった。その他は、市の他部署に以前から話が来ていたものを集約した結果である。

(松波部会長)

民有地を含めた形で再検討する。今回の部会での検討結果を第二次選定結果として委員会に報告し、7月6日の委員会に「案」を取って二次選定結果としたいがどうか。

(高橋委員)

これは、民有地は第一次選定、第二次選定の除外エリアには入っていないのか。

(事務局)

入っていない。

4. 建設候補地選定専門部会 三次選定の評価項目の内容と評価の例

〔三次選定の評価項目の内容について〕

(百武委員)

施設を建設するにあたり、この条件では無理だという項目と、こちらの条件の方が良いという項目があると思われる。その場合、2段階に分け評価を行う考え方がどうか。

(事務局)

いただいた意見を踏まえて検討する。

(金田委員)

3点確認したいことがある。1点目は、事務局説明により示された図で各候補地の地震の揺れを比較した場合、ほとんどの場所が同じ色(黄色)になっている。評価の差が出てこず、評価項目になり得るのか疑問である。2つ目は、熱利用の面を考慮すると、学校や福祉施設が隣接すると評価が上がり、教育、福祉施設への配慮の面では、熱回収施設が隣接すると評価が低くなる。どちらに重きを置き評価をするのか再検討する必要があるのではないかと。3つ目は、既に焼却施設がある場所では、それを建て替える場合は、評価の対象外にならないのではないかと。

(事務局)

地盤の差があまりつかない点や、学校・福祉施設と熱回収施設の評価の矛盾についてはおっしゃるとおり。相反する評価項目なので、どちらに重きを置くか考慮する必要がある。

(松波部会長)

トレードオフになるような評価項目は、重み付けの仕方が重要である。したがって、相反する内容が入ることは考えられる。

(大谷委員)

地域住民の居住状況の項目についても、上小山田、下山田は人口密度が低いことから得点が高くなってしまいが、その一方で緑が大事と言っているのはどうなのか。

(百武委員)

用地取得費、初期整備費、ライフライン整備費は一緒にすべきではないかと。また、今は初期に掛かる費用のみの経済性評価となっているが、ランニングコストは差が出ないのか。

(事務局)

ランニングコストは差が出ないと考えている。意見を頂いて再度精査していきたいと考えている。経済性の評価についてはおっしゃるとおりなので、評価の重みづけと同様にご意見をいただきたいと考えている。

(百武委員)

レッドデータブックについては、公表できないと資料にあったが、入手できないのか。点数はつけられる状態なのか。

(事務局)

確認する必要があるが、町田市が独自にレッドデータブックは出していないが、希少生物の生存地は把握しているかもしれない。したがって、そのようなデータがあれば精査する必要があると考えている。

5. 建設候補地選定専門部会 三次選定の評価項目の配点の検討

(松波部会長)

時間の関係上「第三次選定の評価の項目の配点の検討」のワークショップが行えなかったため、次回の部会に回す。

6. 事務連絡

次回の部会と現地視察の開催日時と内容について、再度調整し後日連絡する。

7. 閉会